

種目【美術】(1/2)

調査内容	9 開隆堂	38 光村																																								
1-(1) ・資質・能力の三つの柱をバランスよく育成するための配慮 ・安全面の配慮	<p>■育てたい資質・能力の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材ごとに、資質・能力の三つの柱に対応した学習目標を設定している。また、どのような力を主に身に付けることができるのか、学習目標に対応した小見出しを設けている。</li> <li>・各巻頭には美術を学ぶ意味や態度を、巻末には美術の学習を振り返り、自らの成長が確認できる構成としている。</li> </ul> <p>■安全面や著作権等に関わる配慮の数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>2・3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安全面</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>著作権等</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	学年	1	2・3	安全面	2	3	著作権等	4	1	<p>■育てたい資質・能力の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材ごとに、資質・能力の三つの柱に対応した学習目標を設定している。また、題材の初めに学習を通して意識させたい造形的な視点を明記している。</li> <li>・学習目標を簡潔な文章でまとめ、身につける力や学習のねらいが生徒に明確に伝わるようにしている。</li> </ul> <p>■安全面や著作権等に関わる配慮の数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>1 資料</th> <th>2・3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安全面</td> <td>0</td> <td>7</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>著作権等</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	学年	1	1 資料	2・3	安全面	0	7	0	著作権等	0	5	1																			
学年	1	2・3																																								
安全面	2	3																																								
著作権等	4	1																																								
学年	1	1 資料	2・3																																							
安全面	0	7	0																																							
著作権等	0	5	1																																							
1-(2) ・指導内容の系統性、生活や社会とのつながり ・題材の構成・配列	<p>■美術と生活や社会とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成するために、導入、発想・構想時に扱っている。(2・3年 P66・67)</li> </ul> <p>■表現(2つの分野)と鑑賞の題材数とバランス</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>2・3</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>絵画や彫刻など</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>デザインや工芸など</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>鑑賞</td> <td>2</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>11</td> <td>22</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table> <p>・表現と鑑賞が一体的に学習できるような配慮をし、2つの分野の題材をバランスよく掲載している。(例)1年 P6</p>	学年	1	2・3	合計	絵画や彫刻など	5	8	13	デザインや工芸など	4	7	11	鑑賞	2	7	9	合計	11	22	33	<p>■美術と生活や社会とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成するために、制作、作品鑑賞時に扱っている。(2・3年 P76・77)</li> </ul> <p>■表現(2つの分野)と鑑賞の題材数とバランス</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>2・3</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>絵画や彫刻など</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>デザインや工芸など</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>鑑賞</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>19</td> <td>24</td> <td>43</td> </tr> </tbody> </table> <p>・表現と鑑賞が一体的に学習できるような配慮をし、2つの分野の題材をバランスよく掲載している。(例)1年 P7</p>	学年	1	2・3	合計	絵画や彫刻など	8	7	15	デザインや工芸など	5	5	10	鑑賞	6	12	18	合計	19	24	43
学年	1	2・3	合計																																							
絵画や彫刻など	5	8	13																																							
デザインや工芸など	4	7	11																																							
鑑賞	2	7	9																																							
合計	11	22	33																																							
学年	1	2・3	合計																																							
絵画や彫刻など	8	7	15																																							
デザインや工芸など	5	5	10																																							
鑑賞	6	12	18																																							
合計	19	24	43																																							
1-(3) ・「造形的な見方・考え方」の扱い ・言語活動の充実	<p>■主体的・対話的で深い学びの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材を端的なりード文で示し、アイデアスケッチや活動の様子を写真掲載することで、学習過程を表している。</li> <li>・生徒作品に「作者のこぼし」を添えて掲載し、表現の工夫やよさを感じたり、考えたりできるようになっている。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>2・3</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒作品の数</td> <td>54</td> <td>109</td> <td>163</td> </tr> <tr> <td>作者のこぼし</td> <td>40</td> <td>54</td> <td>94</td> </tr> </tbody> </table>	学年	1	2・3	合計	生徒作品の数	54	109	163	作者のこぼし	40	54	94	<p>■主体的・対話的で深い学びの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材の初めに表現につながる鑑賞作品を、発想時には「みんなの工夫」を掲載して、学習過程を表している。</li> <li>・生徒作品に「作者の言葉」を添えて掲載し、生徒の思考の流れに沿った工夫が考えられるようになっている。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>2・3</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒作品の数</td> <td>30</td> <td>39</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>作者の言葉</td> <td>26</td> <td>39</td> <td>65</td> </tr> </tbody> </table>	学年	1	2・3	合計	生徒作品の数	30	39	69	作者の言葉	26	39	65																
学年	1	2・3	合計																																							
生徒作品の数	54	109	163																																							
作者のこぼし	40	54	94																																							
学年	1	2・3	合計																																							
生徒作品の数	30	39	69																																							
作者の言葉	26	39	65																																							
2-(1) ・選択・決定しながら深める個別最適な学び ・他者との協働	<p>■「個別最適な学び」の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学びが深められるように、「案内役のコメント」を投げかけ、一人一人が自らの主題を考えたり、表現方法を選択したり、自己決定しながら学習を深めたりできるように、「中学生の吹き出し」を載せている。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>2・3</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>案内役のコメントの数</td> <td>32</td> <td>57</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>中学生の吹き出しの数</td> <td>6</td> <td>28</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table> <p>■「協働的な学び」の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が他者と課題に取り組むことを通して、協力し合い、意見を交わし合うことで表現活動を深める場面を紹介している。</li> </ul>	学年	1	2・3	合計	案内役のコメントの数	32	57	89	中学生の吹き出しの数	6	28	34	<p>■「個別最適な学び」の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の関心や能力に基づいて表現方法を選択できるように、「みんなの工夫」で活動例を提示し、「POINT」で色彩、材料などの視点を提示している。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>2・3</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>みんなの工夫の数</td> <td>7</td> <td>11</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>POINTの数</td> <td>18</td> <td>22</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table> <p>■「協働的な学び」の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が仲間と課題に取り組んだり交流したりするきっかけとなるように、他者と関わり合ったり、表現活動を深め合ったりする場面を紹介している。</li> </ul>	学年	1	2・3	合計	みんなの工夫の数	7	11	18	POINTの数	18	22	40																
学年	1	2・3	合計																																							
案内役のコメントの数	32	57	89																																							
中学生の吹き出しの数	6	28	34																																							
学年	1	2・3	合計																																							
みんなの工夫の数	7	11	18																																							
POINTの数	18	22	40																																							
2-(2) ・表現と鑑賞を相互に関連させた学習サイクルの扱い	<p>■表現と鑑賞が相互に関連する学習の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材を4ページで構成し、表現と鑑賞を一体化した授業展開を意識した紙面となっている。また、3つの学習目標に関連のある小見出しを設けることで、授業計画を行う際に、目標と照らし合わせながら、評価を確認・検討しやすくしている。</li> <li>・学習改善・指導改善につなげられるように、「先生」と「生徒」のキャラクターを掲載し、それぞれの視点からのコメントを掲載している。(例)1年 P14・15</li> </ul>	<p>■表現と鑑賞が相互に関連する学習の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2ページ題材は「鑑賞→表現」、4ページ題材は、「鑑賞→表現→鑑賞」と構成して、生徒が鑑賞と表現を関連させて学びを深められるようにしている。また、表現には、吹き出しに自己評価の観点を示し、評価を確認しやすくしている。</li> <li>・鑑賞から得た知識が題材を通して生かせるように、題材導入の生徒作品には、造形的な視点を示した「POINT」を付けて掲載している。(例)1年 P22・23</li> </ul>																																								
2-(3) ・ICTを活用した学習活動の内容 ・二次元コード掲載数	<p>■ICTを活用した学習</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>2・3</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二次元コード数</td> <td>16</td> <td>25</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>ICT活用例数</td> <td>9</td> <td>24</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table> <p>・題材名の上部に、「はじめに」「生徒作品」「鑑賞シート」「振り返りシート」「関連ページ」等のアイコンを併用しながら二次元コードをまとめて位置付けている。ICT活用については、活用の様子や生徒作品を写真で取り上げて、作者のこぼしでねらいを紹介している。</p>	学年	1	2・3	合計	二次元コード数	16	25	41	ICT活用例数	9	24	33	<p>■ICTを活用した学習</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>1 資料</th> <th>2・3</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二次元コード数</td> <td>32</td> <td>40</td> <td>66</td> <td>138</td> </tr> <tr> <td>ICT活用例数</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>16</td> <td>36</td> </tr> </tbody> </table> <p>・題材名の右には「全国の生徒作品を見てみよう」、発想時には「作者のインタビュー動画を見てみよう」、鑑賞時には「コンテンツを見て体験しよう」という文言を添えた二次元コードを位置付けている。ICT活用については、作家や生徒作品、制作過程等を写真で取り上げて、活用例を説明している。</p>	学年	1	1 資料	2・3	合計	二次元コード数	32	40	66	138	ICT活用例数	10	10	16	36													
学年	1	2・3	合計																																							
二次元コード数	16	25	41																																							
ICT活用例数	9	24	33																																							
学年	1	1 資料	2・3	合計																																						
二次元コード数	32	40	66	138																																						
ICT活用例数	10	10	16	36																																						
3-(1) ・教科書の総ページ数、重量	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>2・3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総ページ数</td> <td>72</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td>重量(g)</td> <td>250</td> <td>470</td> </tr> </tbody> </table> <p>A4ワイド版(232×298mm)</p>	学年	1	2・3	総ページ数	72	128	重量(g)	250	470	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>1 資料</th> <th>2・3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総ページ数</td> <td>70</td> <td>36</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>重量(g)</td> <td>290</td> <td>133</td> <td>385</td> </tr> </tbody> </table> <p>A4ワイド版(232×298mm)※1資料集は210×298mm</p>	学年	1	1 資料	2・3	総ページ数	70	36	108	重量(g)	290	133	385																			
学年	1	2・3																																								
総ページ数	72	128																																								
重量(g)	250	470																																								
学年	1	1 資料	2・3																																							
総ページ数	70	36	108																																							
重量(g)	290	133	385																																							
3-(2) ・読みやすさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UDフォントを採用している。</li> <li>・表紙は立体的に浮き出た特殊加工を施している。</li> <li>・印刷インキのギラツキを抑え、発色が鮮やかに印刷できる用紙が使用されている。</li> <li>・原寸大の図版が10か所あり、実物と同じ大ききで掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな文字に、UDフォントを採用している。</li> <li>・表紙は耐久性のあるコーティングを施している。</li> <li>・作者が意図した色合いが再現できるよう、実物に近い色味を出している。</li> <li>・日本絵画の鑑賞資料として、和紙に近い用紙を使用している。原寸大の図版が3か所ある。</li> </ul>																																								
3-(3) ・目次、牽引、注、凡例、巻末資料等の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭には、小中の接続、社会とのつながりを意識した内容を、その後には、教科書の使い方の確認や身に付けたい力についての資料を配置している。</li> <li>・巻末には学びの資料として、知識や技能を培う資料や美術館の楽しみ方の情報のページを配置している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭には、身の回りの造形と美術との関わり、社会で果たす美術の役割を意識した内容を、その後には、1年間の題材の見通しや教科書の使い方を配置している。</li> <li>・学びを支える資料として「1 資料」には技法や用具の使い方を、2・3巻末には美術館や美術史の情報を配置している。</li> </ul>																																								

種目【美術】(2/2)

調査内容	116 日文																									
1-(1) ・資質・能力の三つの柱をバランスよく育成するための配慮 ・安全面の配慮	<p>■育てたい資質・能力の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材ごとの学習目標を「学びの目標」として、資質・能力の三つの柱に対応した3項目で設定し、その具体を「鑑賞の入り口」「造形的な視点」で提示している。</li> <li>・本文を生徒に問いかける文章にしており、生徒が自分事に置き換えて学習活動を始めていく展開を想定している。</li> </ul> <p>■安全面や著作権等に関わる配慮の数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>2・3上</th> <th>2・3下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安全面</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>著作権等</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	学年	1	2・3上	2・3下	安全面	5	3	0	著作権等	1	1	2													
学年	1	2・3上	2・3下																							
安全面	5	3	0																							
著作権等	1	1	2																							
1-(2) ・指導内容の系統性、生活や社会とのつながり ・題材の構成・配列	<p>■美術と生活や社会とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成するために主題設定時に扱っている。 (例)2・3年上 P40・41</li> </ul> <p>■表現(2つの分野)と鑑賞の題材数とバランス</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>2・3上</th> <th>2・3下</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>絵画や彫刻など</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>デザインや工芸など</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>鑑賞</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>18</td> <td>17</td> <td>15</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現と鑑賞が一体的に学習できるような配慮をし、2つの分野の題材をバランスよく掲載している。(例)1年 P5</li> </ul>	学年	1	2・3上	2・3下	合計	絵画や彫刻など	7	6	5	18	デザインや工芸など	6	7	5	18	鑑賞	5	4	5	14	合計	18	17	15	50
学年	1	2・3上	2・3下	合計																						
絵画や彫刻など	7	6	5	18																						
デザインや工芸など	6	7	5	18																						
鑑賞	5	4	5	14																						
合計	18	17	15	50																						
1-(3) ・「造形的な見方・考え方」の扱い ・言語活動の充実	<p>■主体的・対話的で深い学びの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「鑑賞の入り口」「学びの目標」「学びの初めに」「造形的な視点」「表現のヒント」を示し、学習過程を表している。</li> <li>・表現のきっかけとして生徒作品を、また表現に込められた思いや工夫が感じ取れるように「作者の言葉」を掲載している。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>2・3上</th> <th>2・3下</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒作品の数</td> <td>61</td> <td>55</td> <td>46</td> <td>122</td> </tr> <tr> <td>作者の言葉の数</td> <td>33</td> <td>29</td> <td>23</td> <td>85</td> </tr> </tbody> </table>	学年	1	2・3上	2・3下	合計	生徒作品の数	61	55	46	122	作者の言葉の数	33	29	23	85										
学年	1	2・3上	2・3下	合計																						
生徒作品の数	61	55	46	122																						
作者の言葉の数	33	29	23	85																						
2-(1) ・選択・決定しながら深める個別最適な学び ・他者との協働	<p>■「個別最適な学び」の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の関心や能力に応じて主題や課題を選択するために、各題材で意識するポイントを「造形的な視点」で示し、また表現方法を広げるために、活動内容を「表現のヒント」で提示している。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>2・3上</th> <th>2・3下</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>表現のヒントの数</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>10</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>造形的な視点の数</td> <td>19</td> <td>17</td> <td>15</td> <td>51</td> </tr> </tbody> </table> <p>■「協働的な学び」の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が仲間との協力や意見交換を通してアイデアや技術を共有し、表現活動を広げる場面を紹介している。</li> </ul>	学年	1	2・3上	2・3下	合計	表現のヒントの数	13	13	10	36	造形的な視点の数	19	17	15	51										
学年	1	2・3上	2・3下	合計																						
表現のヒントの数	13	13	10	36																						
造形的な視点の数	19	17	15	51																						
2-(2) ・表現と鑑賞を相互に関連させた学習サイクルの扱い	<p>■表現と鑑賞が相互に関連する学習の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材を見開き2ページで構成し、目標やポイントなどの学習の内容と評価がひと目でわかる紙面となっている。掲載作品などの「鑑賞」、自らの「表現」、友人作品の「鑑賞」と相互に関連し合う学習サイクルを示している。</li> <li>・題材を通して資質・能力が身に付くために、生徒自身で「鑑賞の入り口」で考えたことに立ち返られる「造形的な視点」を掲載している。(例)1年 P18・19</li> </ul>																									
2-(3) ・ICTを活用した学習活動の内容 ・二次元コード掲載数	<p>■ICTを活用した学習</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>2・3上</th> <th>2・3下</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二次元コード数</td> <td>40</td> <td>38</td> <td>29</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>ICT活用例数</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙面に登場した作家等のインタビュー動画や導入部には「学びのはじめに」、発想・構想時には「資料を見よう」、制作時には「動画を見よう」という文言を添えた二次元コードが位置付けられている。ICT活用については、「短時間でつくる」「表現のヒント」等のアイコンを併用して、理由を説明している。</li> </ul>	学年	1	2・3上	2・3下	合計	二次元コード数	40	38	29	107	ICT活用例数	13	13	13	39										
学年	1	2・3上	2・3下	合計																						
二次元コード数	40	38	29	107																						
ICT活用例数	13	13	13	39																						
3-(1) ・教科書の総ページ数、重量	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1</th> <th>2・3上</th> <th>2・3下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総ページ数</td> <td>76</td> <td>66</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>重量(g)</td> <td>278</td> <td>240</td> <td>228</td> </tr> </tbody> </table> <p>A4ワイド版(232×298mm)</p>	学年	1	2・3上	2・3下	総ページ数	76	66	62	重量(g)	278	240	228													
学年	1	2・3上	2・3下																							
総ページ数	76	66	62																							
重量(g)	278	240	228																							
3-(2) ・読みやすさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UDフォントを採用している。</li> <li>・表紙は耐久性のあるコーティングが施されている。</li> <li>・良質のコート紙、マット紙を使用し作品のニュアンスや材質感、色彩等の忠実な再現が図られている。</li> <li>・浮世絵を鑑賞するページでは、高密度の高精細印刷が施されている。原寸大の図版が4か所ある。</li> </ul>																									
3-(3) ・目次、牽引、注、凡例、巻末資料等の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭には、各学年で身に付けたい資質・能力を考える内容を、その後には、1年間の題材の見通しや教科書の使い方を配置している。</li> <li>・巻末には、学びを支える資料として、発想・構想・知識(技法・色彩)、鑑賞に関わる情報のページを配置している。</li> </ul>																									